



2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年1月31日

上場会社名 株式会社島精機製作所 上場取引所 東
 コード番号 6222 URL <https://www.shimaseiki.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 島 三博
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員経理財務部長 (氏名) 南木 隆 (TEL) 073-471-0511
 四半期報告書提出予定日 2023年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	26,847	19.3	△644	—	△405	—	△1,058	—
2022年3月期第3四半期	22,506	41.4	△2,994	—	△2,317	—	△2,636	—

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 1,960百万円(—%) 2022年3月期第3四半期 △1,831百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	△30.66	—
2022年3月期第3四半期	△76.38	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	104,451	90,414	86.5
2022年3月期	101,809	88,795	87.2

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 90,375百万円 2022年3月期 88,761百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	5.00	—	5.00	10.00
2023年3月期	—	5.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	10.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	37,500	21.0	△800	—	△450	—	△1,200	—	△34.77

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	35,800,000株	2022年3月期	35,800,000株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	1,285,581株	2022年3月期	1,285,281株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	34,514,545株	2022年3月期3Q	34,513,758株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9
3. 補足情報	12
受注及び販売の状況	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における経済の動向は、新型コロナウイルスの感染が長期化する中、米国では、インフレ抑制に向けた積極的な金融引き締めにより景況感が悪化し、欧州では、ロシア・ウクライナ情勢の長期化にともなう資源高やエネルギー価格の高騰など景気の減速が懸念されます。中国では、不動産市場の停滞やロックダウンの規制をめぐる混乱で内需が低迷し景気の下押し圧力が強まっています。わが国においては、経済活動正常化に向け景気は緩やかに持ち直してはいるものの資源価格上昇や円安による物価高騰など、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

このような経済情勢の中、当社グループは中期経営計画「Ever Onward 2023」に基づき、戦略商品と位置付けるホールゲーム横編機の拡販、ソリューションビジネスの拡大などサステナブルなものの創りを支援する製品・サービスの提案活動を世界各地の顧客、業界に向けて展開しました。また当第3四半期においては、本社及びオンライン特設サイトにおいて創立60周年記念イベントを開催し当社の先進的な取り組みと今後の方向性を発信しました。さらに、インテックス大阪において開催された「JIAM 2022 OSAKA 国際アパレル機器&繊維産業見本市」では、裁断精度と生産性を大幅にアップさせた、自動裁断機のフラッグシップモデルである「P-CAM R」を初出展し、またタオル生産の後工程を自動化する自動タオルヘム裁断機「SATC90」、ホールゲーム横編機の新たなスタンダードとなる「SWG-XR154」等の最新機種を展示するなどアパレルファッション業界に対し、幅広くソリューションのラインアップを展開しました。

当社のコア・ビジネスである横編機事業の状況は、欧州では、付加価値の高い商品開発を得意とするイタリア市場において、経済活動の再開や有名ブランドの自社製品開発の動きにともない設備投資が活発となり、ホールゲーム横編機や高いデザイン性を発揮する成型編機を中心に需要が増加しました。中東のトルコ市場においては、欧州や国内ファストファッションアパレルからの受注による設備投資が活発となりコンピュータ横編機を中心に売上高が伸長しました。アジア地域では、主要マーケットである中国市場において上海のロックダウンなどゼロコロナ政策にともなうサプライチェーンの混乱により企業活動や生産設備投資が大きく停滞し、ホールゲーム横編機を中心に販売が低調となりました。一方、香港系の大手顧客による東南アジアの生産拠点向け設備更新需要が伸長し生産効率が高い「N.SVR」の販売が増加し、また先進国向けニット製品の生産拠点であるバングラデシュ等においては、大手アパレルからの受注が回復傾向となり設備投資が活発化し売上が伸長しました。これらの結果、横編機事業全体の売上高は190億1百万円（前年同期比29.1%増）となりました。

デザインシステム関連事業においては、欧米、国内の大手アパレルブランドを中心にSDS-ONE APEXソフトウェアのサブスクリプションサービスである「APEXfiz」のライセンス契約数が伸長しました。また自動裁断機「P-CAM」については海外を中心に販売が増加し、売上高は25億92百万円（前年同期比22.6%増）となりました。手袋靴下編機事業は、大手ユーザーの設備投資が一巡した結果、売上高は7億37百万円（前年同期比61.8%減）となりました。その他事業につきましては、売上高は45億17百万円（前年同期比20.5%増）となりました。これらの結果、当第3四半期連結累計期間全体の売上高は268億47百万円（前年同期比19.3%増）となりました。

利益面におきましては、コロナ禍を背景とした部品や原材料価格、物流費の高騰の影響はあったものの、工場操業度が改善したことや継続的なコスト削減に努めた結果、売上総利益率は回復傾向となり、営業損失は改善し6億44百万円（前年同期は営業損失29億94百万円）、経常損失4億5百万円（前年同期は経常損失23億17百万円）、また関係会社株式評価損等の特別損失の計上があり親会社株主に帰属する四半期純損失10億58百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失26億36百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、売上債権、棚卸資産の増加などで前連結会計年度末に比べ26億42百万円増加し、1,044億51百万円となりました。負債合計は買掛債務の増加などで前連結会計年度末に比べ10億23百万円増加し、140億37百万円となりました。また自己資本の額は、903億75百万円となり、自己資本比率は前連結会計年度末に比べて0.7ポイント低下し86.5%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、2022年10月25日に公表いたしました2023年3月期通期（連結・個別）の業績予想数値を修正いたしました。詳細につきましては、本日公表の「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	24,339	17,588
受取手形及び売掛金	39,498	42,938
商品及び製品	6,575	10,660
仕掛品	1,073	1,296
原材料及び貯蔵品	7,449	8,654
その他	998	1,391
貸倒引当金	△5,399	△4,297
流動資産合計	74,536	78,232
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,919	6,733
土地	6,399	6,398
その他（純額）	2,932	2,996
有形固定資産合計	16,250	16,129
無形固定資産		
のれん	1,967	1,776
その他	147	205
無形固定資産合計	2,114	1,982
投資その他の資産		
投資有価証券	5,417	4,679
退職給付に係る資産	1,211	1,207
繰延税金資産	503	498
その他	3,407	3,243
貸倒引当金	△1,631	△1,521
投資その他の資産合計	8,907	8,107
固定資産合計	27,273	26,219
資産合計	101,809	104,451

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,207	2,472
電子記録債務	499	882
リース債務	965	832
未払法人税等	327	496
契約負債	1,090	1,614
賞与引当金	707	479
債務保証損失引当金	201	150
その他	2,189	2,715
流動負債合計	8,188	9,644
固定負債		
長期末払金	947	947
リース債務	1,746	1,250
繰延税金負債	543	610
退職給付に係る負債	1,298	1,295
その他	289	288
固定負債合計	4,825	4,392
負債合計	13,013	14,037
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,859	14,859
資本剰余金	23,423	23,423
利益剰余金	51,541	50,137
自己株式	△3,925	△3,925
株主資本合計	85,899	84,495
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	382	847
土地再評価差額金	33	33
為替換算調整勘定	2,630	5,183
退職給付に係る調整累計額	△184	△183
その他の包括利益累計額合計	2,862	5,880
新株予約権	16	19
非支配株主持分	17	18
純資産合計	88,795	90,414
負債純資産合計	101,809	104,451

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
売上高	22,506	26,847
売上原価	15,197	16,422
売上総利益	7,309	10,425
販売費及び一般管理費	10,304	11,069
営業損失(△)	△2,994	△644
営業外収益		
受取利息	250	173
受取配当金	131	163
その他	394	270
営業外収益合計	777	607
営業外費用		
支払利息	36	21
為替差損	6	268
貸倒引当金繰入額	—	34
その他	57	44
営業外費用合計	100	368
経常損失(△)	△2,317	△405
特別損失		
固定資産除売却損	11	—
投資有価証券償還損	—	13
関係会社株式評価損	—	236
特別損失合計	11	249
税金等調整前四半期純損失(△)	△2,329	△655
法人税、住民税及び事業税	242	367
法人税等調整額	64	34
法人税等合計	306	401
四半期純損失(△)	△2,635	△1,057
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△2,636	△1,058

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
四半期純損失(△)	△2,635	△1,057
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△189	465
為替換算調整勘定	989	2,552
退職給付に係る調整額	4	0
その他の包括利益合計	804	3,018
四半期包括利益	△1,831	1,960
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,831	1,959
非支配株主に係る四半期包括利益	0	0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

海外連結子会社は、税金費用について、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(表示方法の変更)

従来、「営業外収益」に計上しておりました「貸倒引当金戻入益」及び「債務保証損失引当金戻入益」は、金額的重要性に鑑み、表示区分の見直しの検討を行った結果、第2四半期より営業取引に基づく債権に係る繰入額と同区分である「販売費及び一般管理費」から控除する方法に変更しております。

また、この表示方法を反映させるため、前第3四半期連結累計期間の四半期財務諸表の組替えを行っております。この結果、前第3四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書において、営業損失が188百万円減少しております。なお、経常損失及び税金等調整前四半期純損失に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	横編機	デザイン システム 関連	手袋靴下 編機	計		
売上高						
一時点で移転される財	14,713	2,113	1,931	18,758	3,563	22,322
一定の期間にわたり移転 されるサービス	—	—	—	—	184	184
顧客との契約から生じる 収益	14,713	2,113	1,931	18,758	3,748	22,506
外部顧客への売上高	14,713	2,113	1,931	18,758	3,748	22,506
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	14,713	2,113	1,931	18,758	3,748	22,506
セグメント利益又は 損失(△)	747	537	△2	1,282	289	1,571

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、編機・デザインシステム用部品事業、修理・保守事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利 益	金 額
報告セグメント計	1,282
「その他」の区分の利益	289
全社費用(注)	△4,566
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△2,994

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	横編機	デザイン システム 関連	手袋靴下 編機	計		
売上高						
一時点で移転される財	19,001	2,592	737	22,330	4,386	26,717
一定の期間にわたり移転 されるサービス	—	—	—	—	130	130
顧客との契約から生じる 収益	19,001	2,592	737	22,330	4,517	26,847
外部顧客への売上高	19,001	2,592	737	22,330	4,517	26,847
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	19,001	2,592	737	22,330	4,517	26,847
セグメント利益	2,927	580	79	3,588	779	4,368

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、編機・デザインシステム用部品事業、修理・保守事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利 益	金 額
報告セグメント計	3,588
「その他」の区分の利益	779
全社費用(注)	△5,012
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△644

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(追加情報) (表示方法の変更)に記載のとおり、従来、「営業外収益」に計上しておりました「貸倒引当金戻入益」及び「債務保証損失引当金戻入益」は、第2四半期連結累計期間より「販売費及び一般管理費」から控除する方法に変更しております。前第3四半期連結累計期間のセグメント情報についても組替え後の数値を記載しております。

【関連情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	欧州	中東	アジア	その他	合計
5,214	6,390	967	8,792	1,142	22,506

(注) 1 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

2 「アジア」に属する地域は、東アジア、南アジア、東南アジア、中央アジアであります。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	欧州	中東	アジア	その他	合計
5,229	7,746	2,276	9,381	2,212	26,847

(注) 1 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

2 「アジア」に属する地域は、東アジア、南アジア、東南アジア、中央アジアであります。

3. 補足情報

受注及び販売の状況

①受注実績

当第3四半期連結累計期間における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。
(単位：百万円)

セグメントの名称	受注高	前年同四半期 増減率	受注残高	前年同四半期 増減率
横編機	21,776	38.4%	8,409	77.6%
デザインシステム関連	2,702	9.3%	543	△9.6%
手袋靴下編機	592	△69.1%	48	△90.7%
合計	25,071	24.6%	9,001	53.6%

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

②販売実績

当第3四半期連結累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。
(単位：百万円)

セグメントの名称	販売高	前年同四半期増減率
横編機	19,001	29.1%
デザインシステム関連	2,592	22.6%
手袋靴下編機	737	△61.8%
その他	4,517	20.5%
合計	26,847	19.3%

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。